



Go West!

佐賀県立唐津西高等学校

学校だより NO.2 R4.05.02

【建学の精神】朝（あした）に希望 タベに感謝

文責 学校長 下村 昌弘

E-Mail shimomura-masahiro@education.saga.jp

Why で深め HOW で進める

双松を図案化した校章。Wの文字があしらわれています。そこには物事を筋道立ててとらえる着眼点、5W1H（When, Where, Who, What, Why, How）の意味が込められているというのは西高生の常識でしょうか。

“Why”は思考を深めてくれます。「なぜ」という問いは2～3回繰り返すと結構根源的な部分にたどり着きます。例えば「なぜ彼女は涙を流したのか」という問い。「悲しかったから」という答え。では「なぜ悲しかったのか」（2回目の問い）…というふうに。しかし、時として「なぜ」は行き場をなくし、堂々巡りの問いになることもしばしば…。



そこで、何かうまくいかなかった時に、発想を“Why”から“How”に変えてみると今度は解決の手立てが見えてきます。

新学年、新学期がスタートしてひと月。新しい状況が今一つつかめず、しかもコロナの感染状況で思うような学校生活が送れず、少しの躓きやうまくいかなさがとてつもなく大変なことのようにも思えることもあります。

そうした中、まだ経験が十分でない青春時代には失敗を受け入れながら、うまく次に生かす手立てを見つける術を身につけることが重要です。

「なぜそんなことをしてしまったのだろう」と原因探しをしてしまうと何か自分で自分を追いつめてしまうことにもつながります。そもそも何が原因であるか分からないことも結構多いもの。あるいは原因が分かったとしてもいい解決策が見つかるとは限りません。

そこで原因探しはそこそこにして「この問題にどう取り組めばいいのだろう」と考えると失敗を次に生かしていけるようになります。

発想を“Why”から“How”に変えてみよう。「なんで?」「どうして?」を2～3回繰り返してみた後で、「どうする?」「どうやって解決する?」と問いを変えてみるのです。

“Why”で深め“How”で進める。西高の新常識になってくれればと思います。

コロナの勢いにどう対処

第6波も収まらないまま、オミクロン株 BA2 型といわれる極めて感染力の強いウイルスが出回っています。強い感染力と症状のほとんどない不顕在性が特徴のオミクロン型は感染の中心を青少年層に移し、学校や家庭がウイルスの隠れ家になってきました。



重篤化がないことが保証されればインフルエンザと同じような対応も可能になるのですが、抵抗力のない人たちにとっては命に係わる脅威であることは間違いありません。

新型コロナウイルスは空気の滞留する空間を除けば、基本的には飛まつ感染であり、感染力は距離の2乗に反比例すると言われています。

つまり、“換気をよくすること”と“距離を保つこと”で防御が可能ということです。

来週からは体育祭の練習が再開されます。マスクを正しく着用したうえで、連続した活動はできるだけ15分以内にとどめ、換気と距離に注意して全員の総力戦で双松祭を成功させましょう。

ボート部 ヨット部 強化指定校に

先月19日、県スポーツ課から本校ボート部及びヨット部に対し、令和4年度のスポーツ強化指定の認定書交付式がありました。

部員を代表してボート部1年男子の川添遥斗さんとヨット部女子キャプテンの久保田涼花さんが証書を受け取りました。二人は「国スポ2024佐賀大会を視野に入れて頑張りたい」と決意を語ってくれました。

ボート・ヨットは西高お家芸の一つ。全国を舞台に大いに活躍してほしいものです。



ボランティア考 その1

ボランティアはかつて奉仕活動と訳されているのが一般的でした。それが大きく変わったのは、私が教員になって間もなかった阪神淡路大震災ではなかったかと思います。災害復興のためにたくさんの方が自らの意志で現地に駆け付け、瓦礫の撤去、炊き出し、避難所開設などのお世話を当りました。

その翌年でしたか、福井でロシアタンカーによる重油流出事故がありました。近隣の府県から多くの高校生が海岸にたどり着いた重油をくみ取る作業を手伝いに集まりました。

あのころからボランティアに対する考え方が変わったように思います。

それは「奉仕」という、ある意味、自分のエゴを抑え他者に「奉り、仕える」という献身的な活動といったイメージから、自発性・主体性こそが最も重要な要素で、「誰かのため」とともに「自分のため」の活動でもあること、純粹無垢に人と人がつながることのできる、何か明るくすがすがしいイメージへ変わったといったところでしょうか。

本校にはこのボランティアの精神が脈々と息づいています。それは双松の精神、人と人が互いに寄り添うという価値観が基盤にあると感じます。

それぞれの時代で人と人はどう寄り添っていけるのか、こうした人としての究極の問いに答えていくことこそが本校に学ぶ者の使命なのかもしれません。

この学校を選んだ皆さんが昨日よりも今日、今日より明日、少しでも人にやさしく寄り添える人になれることを願っています。



【5月前半の主な予定】

5月2日(月) 開校記念日

5月9日(月) 双松祭(体育の部) 練習再開

5月11日(水) 代休

5月14日(土) 第67回体育祭